

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	23-337	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Hepatic mitochondrial reductive stress in the pathogenesis and treatment of steatotic liver disease. 脂肪性肝疾患の病態と治療における肝ミトコンドリアの還元ストレス。		
執筆者		
Jokinen MJ(1), Luukkonen PK(2).		
掲載誌		
Trends Pharmacol Sci. 2024 Apr;45(4):319-334. doi: 10.1016/j.tips.2024.02.003. Epub 2024 Mar 12.		
キーワード	PMID	
脂肪性肝疾患、肝ミトコンドリア、還元ストレス	38471991	
要旨		
<p>脂肪性肝疾患 (SLD) は人口の 3 分の 1 に影響を及ぼしているが、これらの疾患の基礎にある病態は十分に解明されておらず、利用可能な治療法が限られている。脂肪肝疾患に共通する要因は、過剰な脂質およびアルコール代謝の結果として生じる肝ミトコンドリアの還元ストレスの増大である。最近の研究では、遺伝的リスク要因もこのストレスの一因となることが示されている。本レビューでは、これらのリスク要因がどのように肝ミトコンドリアの還元ストレスを増大させ、それがどのように肝代謝を混乱させ、脂肪肝疾患を引き起こすのかを明らかにすることを目的としている。さらに、このレビューでは、SLD の薬物治療に関する最新の臨床研究、特にペルオキシソーム増殖因子活性化受容体ガンマ (PPAR-<math>\gamma</math>) アゴニスト、甲状腺ホルモン受容体 (THR) アゴニスト、アセチル-CoA カルボキシラーゼ (ACC) 阻害剤、ミトコンドリアアンカップラー剤について論じる。これらの治療法には、肝ミトコンドリアの還元ストレスを減少させるという共通の効果があるが、これはこれまでほとんど注目されてこなかった。</p>		